

J Rの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。info@doro-shien.site

みどりの窓口「7割削減」方針を凍結

すでに窓口は半減一大混雑で多数の苦情

J R東日本は5月8日、喜勢社長が会見し、「みどりの窓口7割削減」方針を凍結し、当面は現状維持と発表しました。

鉄道・駅業務ないがしろ

会社は21年5月、当時440駅にあつたみどりの窓口を25年までに140駅まで減らす方針を発表しました。

当時の深澤社長は「自動券売機やチケットレスサービスなど窓口以外の販売が拡大している」「駅は切符を売る場所ではない。ビジネスをどう作るかだ」と語っていました。「地方駅は無人工」方針も出されました。



窓口7割削減＝要員削減は、鉄道業務と現場をおとしめる形で推し進めてきたのです。

「チケットレス化」といっても、窓口と要員の削減・無人駅化によって障がい者や高齢者が列車に乗ることを困難にします。乗客と地方路線を切り捨てるものです。

会社の強引な攻撃の破たん

みどりの窓口は、すでに今年4月時点で21年当時の半分以下の209駅まで減っています。3～4月には定期券購入や訪日客で大混雑となり多数の苦情が寄せられました。

結局、喜勢社長が会見で謝罪し、削減方針の凍結を発表せざるを得なくなったのです。要員・コスト削減と利益を優先して、鉄道業務・駅業務を軽んじる攻撃の破たんです。

*

京葉線快速廃止にも厳しい怒りの声があがり、前代未聞のダイ改見直しに追い込まれました。

会社は職場でも、鉄道業務とそこで働く労働者がないがしろにしています。しかし、それは決して万全ではなく、矛盾に満ちています。職場から声をあげよう。